

第1回 新宿区立幼稚園検討協議会 議事概要

日 時：令和8年6月3日（水）15:30～17:00

場 所：新宿区役所本庁舎6階 第3委員会室

出席者：委員11名、事務局2名

欠席者：1名

凡 例：◎司会進行、○委員、■事務局

【議事】

- 1 新宿区立幼稚園検討協議会について
- 2 区立幼稚園の現状等と今後の検討事項について
 - (1) 区立幼稚園における幼児教育と集団的保育について
 - (2) 区立幼稚園の新入園児募集の現状について
- 3 その他
 - (1) 協議会スケジュール
 - (2) 事務連絡など

議題1 新宿区立幼稚園検討協議会について

■新宿区立幼稚園検討協議会の設置主旨について説明

区立幼稚園は、子どもたちが地域の中で育ち、自立した区民として成長するために重要な役割を担う施設である。一方で、区立幼稚園を取り巻く環境が急激に変化しており、今後のあり方について早急な検討が必要であることから、令和8年5月1日に総合教育会議を開催した。その中で、区長、教育委員会及び関係職員で構成する協議体の設置を決定したことを受け、本協議会を設置し、区立幼稚園の今後について協議を行うこととする。また、協議内容は、令和9年度の区立幼稚園園児募集に関する事項及びその他区立幼稚園に関する事項であり、本協議会では令和9年度に区立幼稚園への入園を希望する幼児の受入れに関する方策を中心に協議を進めていきたい。

また、会議の司会進行について総合教育会議の例により、区長にお願いしたい。

○上記内容について異議なし。

◎議題2、区立幼稚園の現状等と今後の検討事項についての（1）区立幼稚園における幼児教育と集団的保育について、事務局から説明をお願いしたい。

■資料により区立幼稚園における幼児教育及び集団的保育の現状について説明。

◎はじめに、幼児教育について意見交換を行いたい。

○幼児期は人間形成の土台となる大切な時期であり、幼児教育は知識を教えるだけではなく、集団生活の中で子ども自身が主体的に学びを深めていく環境が重要だと思っている。また、区立幼稚園の役割として、「全ての子どもに幼児教育を提供する公的な場としての役割」、「地域で子どもを育てる拠点としての役割」、「小学校教育へ円滑に接続する役割」があると思っている。その中で、障害のある幼児や外国籍の幼児への教育や受入れについて園の状況を伺いたい。

○園では、支援が必要な幼児には支援員を配置している。また、支援員の配置だけではなく子ども同士の関わりの中で見守りながら保育している。子どもたちは日常生活の中で互いの違いを自然に感じ取り、自分や相手の良さに気付くことができる。そうした保育を通じて、多様性の中で生きていく力を育んでいる。外国籍や外国にルーツのある幼児についても、様々な言語や文化に触れながら生活しており、互いの違いを自然に受け入れる環境ができていると感じている。

○様々な背景のある子どもたちを共に育てるインクルーシブ教育は、新宿区が果たすべき重要な役割だと思っている。全ての子どもに幼児教育を提供し、一人ひとりの個性を大切にする教育を引き続き進めてほしい。

○外国籍の子どもたちのコミュニケーションの様子や、保護者への対応状況について伺いたい。

○外国籍の幼児が入園する際には、翻訳機器や通訳を活用しながら保護者への説明を行っている。子どもたちは身振り手振りを含めた様々な方法でコミュニケーションを取り、友達との関わりの中で必要な日本語を学んでいる。また、教員が必要な言葉を丁寧に伝えるとともに、多言語の絵本や外国籍保護者による文化紹介などを通じて、多様な文化や言語に触れる機会を設けている。

○区立幼稚園の役割として、小学校教育との円滑な接続について説明があったが、架け橋プログラムの取組について確認したい。

○昨年度、小学校と連携して「幼保小の架け橋プログラム」のカリキュラムを作成した。小学校のスタートカリキュラムについて、幼児教育の視点から意見交換を行い、発問や掲示方法などについて検討した。また、小学校教員が園を参観することで幼児教育への理解を深め、幼児期から児童期への円滑な接続に向けた取組を進めている。本年度は、その内容の検証を進めている。

○小学校に幼稚園が併設されていることを活かした取組であると感じている。

○配慮を必要とする幼児の受入れについて、私立幼稚園における受入れ状況を教えてほしい。

■私立幼稚園においても一定数の受入れを行っている。

○障害の程度が重い場合は、区立幼稚園が主体的に受け入れることになるのか。

■幼児の状況に応じた受入れが行えるよう、区立幼稚園では体制を整えている。

○支援が必要な幼児の受入れという点でも区立幼稚園の役割は大きいと思っている。また、国際的な文化に触れる機会を求める保護者もいることから、区立幼稚園の環境は必要な面が多いと感じている。

○幼稚園で培われた力が小学校でどのように活かされているのか。

○区立幼稚園では、子どもがやりたいことを大切にしながら学びを積み重ねていると感じている。子どもは自分なりの考えを持って行動しており、その考えを教員が理解し支えている。そうした経験の積み重ねが、小学校での主体的で深い学びにつながっている。また、遊びの中でルールを考えたり変更したりする経験が、小学校での話合いや協同的な学びに活かされていると感じている。さらに、地域との関わりの中で育った子どもたちは、地域を大切にする意識を持っていると感じている。

○幼稚園で自然に身に付けた力が、小学校での学習や生活に活かされていると感じた。

◎続いて、集団的保育について意見交換を行いたい。保育の実態について発言いただきたい。

○少人数学級では一人ひとりを丁寧に見ることができる一方で、人間関係の構築や協働的な学びに課題があると思っている。一定規模の集団であれば、子ども同士が互いに影響を与え合い、多様な考え方に触れることができる。また、人間関係に課題が生じた場合にも、他の友達との関係を築くことができる。リレーなどチームで行うものは集団だからこそ成り立つ活動であり、そうした経験は大切だと思っている。

○支援が必要な子どもがいる場合には、少人数の方が良いようにも感じる。その点についてどうか。

○子どもは子ども同士の関わりの中で育っていくと感じている。支援が必要な子どもについても、友達がその特性を理解し、自然に声を掛けたり支えたりする姿が見られる。そう

した集団が形成されるよう教員が意図的に働きかけることも重要であり、多様な子どもが共に育つことが幼児教育の良さだと思っている。

○そうした姿は、ある程度の人数がいてこそ見られるものだと理解した。

○現在の学級編制基準は8人となっているが、教育活動が成立する最低限の人数について確認したい。

○過去に小学校で少人数学級を担任した経験から、リレーやグループ活動などを考えると、8人程度は必要だと感じている。グループ活動では複数のグループを作ることが重要であり、多様な意見交換を行うためにも一定の人数が必要だと思っている。

○幼児は友達の姿を見て真似をしたり憧れたりしながら学んでいく。人数が増えるほど多様な考え方や表現に触れることができるため、学びも豊かになると感じている。

○幼児教育においては集団で活動することの大切さを改めて感じた。一方で、人間関係が増えればトラブルも増えると思うが、保育の中でどのように捉えているのか。

○子ども同士のトラブルは日常的に起こるが、トラブルこそ学びの機会だと思っている。友達との違いや思いのずれに気付くことで、相手の気持ちを理解したり、自分の気持ちを伝えたりする力が育つ。年齢が上がると人間関係も複雑になるが、話合いや対話を通して課題を解決する経験が小学校につながっていく。トラブルは子どもの成長のきっかけとして非常に大切だと思っている。

○トラブルも人との関わり方を学ぶ機会として捉えていることが理解できた。

○子どもは未熟であるためトラブルは起こるものだと思っている。幼稚園で様々な人間関係を経験してきた子どもは、互いに話し合いながら解決しようとする姿が見られる。幼稚園と小学校は共通して、人との関わり方を学ぶことを大切にしていると感じている。また、幼児教育の段階からそうした経験を積み重ねてもらっていることを大変ありがたく思っている。

◎（２）区立幼稚園の新入園児募集の現状について、事務局から説明をお願いしたい。

■区立幼稚園の新入園児募集について募集要項を説明し、併せて新入園児募集に関して保護者から寄せられた意見について紹介した。

◎新入園児の募集に関して意見をお願いしたい。

○保護者の意見は非常に重要だと思っている。保護者が強い不安を感じていることが伝わってきた。その不安を軽減するため、現在 1 月 15 日となっている入園承認日を前倒しし、年内に決定することは可能なのか。

■入園承認日は現在 1 月 15 日に設定しているが、前倒しを行う余地はあると考えている。実施方法については今後検討が必要である。

○入園承認日を前倒しした場合、11 月上旬の新入園児募集スケジュールなども見直すことになるのか。

■入園承認日を前倒しした場合でも、募集開始時期等のスケジュール変更は現時点では考えていない。

○入園に当たっては面接や健康診断が必要となるため、それらの手続きとの関係も整理しながら検討してほしい。

■健康診断や面接は 11 月下旬頃に実施している。入園前の手続き全体を含めて検討を進めていく。

○保護者意見の中に園配置の見直しに関する意見があった。園配置を見直した場合、保護者の選択肢が限られる面もあると思うが、その点についてどのように考えているのか。

■現在の応募者数では、全ての園で学級編制を行うことが難しい状況となっているため、園の規模について検討する必要がある。一方で、園数を見直した場合には、希望する園に入れない可能性もあるが、区立幼稚園では共通した考え方のもとで幼児教育を行っていることから、どの園においても新宿区の幼児教育を受けることができると考えている。

◎本日の議論では、保護者の不安を解消するために令和 9 年度園児募集においてどのような対応ができるのかを検討していくこと。また、「保護者が安心して応募できる仕組みづくり」、「区立幼稚園に対して前向きな印象を持ってもらうための工夫」、「入園承認日の前倒し」が主な論点になると考えている。入園承認日の前倒しについては、保護者の不安軽減という観点から、年内実施の可能性も含めて検討していく必要があると認識している、さらに、本日の議論を振り返り、これまで区立幼稚園については、学級編制基準である 8 人を下回った場合でも園を存続できるよう基準を見直すべきとの意見が保護者及び地域から出されてきたこと。一方で、本日の議論を通じて、園を存続させること自体が目的なのか、それとも幼児教育が意味あるものとして維持させることに意義があるのか、その 2 つの考えがあると認識している。また、現場の教員からの意見として、「集団でなければ経験できない活動があること」、「少人数では人間関係や協働的な学びに制約が生じること」、「子ども同士の話

合いや問題解決を通じた学びが重要であること」、「トラブルを含めた集団生活の経験が社会性の育成につながる事」などが共有された。こうしたまとめでよろしいか。

○上記内容について異議なし。

◎第2回以降の協議会においては、「園児募集に関する課題の共有」、「入園承認日の前倒し」、「保護者が安心して応募できる取組」を中心に意見交換を行っていきたいと考えている。

○異議なし。

◎限られた時間ではあったが、園児募集に関して有意義な意見交換ができたと感じている。本日の議題は以上とする。

3 その他

(1) 検討スケジュール、(2) 事務連絡など

■今後の協議会スケジュール等について説明。

第2回は7月7日15時より。第3回は7月17日14時半開始で予定している。なお、日程の都合が合わない場合は、書面での意見をいただきたい。また、本会議は公開の会議であり、事務局で議事概要を作成し公開をしていく予定である。